





## >>> マルチステージ時代のキャリアデザイン



3つ目は「個人からネットワークへ」です。新たな学びの意味を創造し、自己の能力を変化させ、外部に適用するためには個人だけでは限界があります。多様な人々のサポートが必要になります。多様な人々とのつながり、相互支援が行われることで継続的な学びを可能にします。

### リカレント教育の概要

これからの学びを支える「リカレント教育」について、国（文部科学省）の取り組みを解説します。

（1）リカレント教育とは  
リカレント（recurrent）には「繰り返し、循環」といった意味があります。文部科学

省の定義によると「学校教育を、人々の生涯にわたって、分散させようとする理念であり、その本来の意味は、職業上必要な知識・技術を修得するために、フルタイムの就学と、フルタイムの就職を繰り返すことである」としています。海外では働くことを一旦中断して、大学や専門学校等に通学することが一般的ですが、日本では働くことを継続しながら夜間の学校に通ったり、通信教育を受けたりすることも含めて考えています。

日本では従来から「生涯教育」があります。リカレント教育との違いは、その目的にあります。生涯教育は一般的には幅広く教養を高めることも目的としているのに対して、リカレント教育は「職業知識・スキル」を修得して、働くことを継続したり、新たに就職したりすることが目的になっています。

### （2）プログラムの概要

文部科学省では2014年から大学、大学院、短大、専門学校等の既存の学科・プログラムや新規の学科・プログラムに対して文部科学大臣の認定を行い、リカレント教育を展開しています。認定にあたっては社会人の受講に配慮しているか、企業等との密接な連携により教育課程を編成しているか、企業等が参加して学校評価を行っているか等の認定要件があります。

学校種、修業年限の違いによって次の3つの認定プログラムがあります。

#### ① 職業実践力育成プログラム

（BP：Brush up Program for professional）

大学・大学院・短期大学・高等専門学校（高専）における社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムを「職業実践力育成プログラム」として文部科学大臣が認定。2015年7月から開始。

#### ② 職業実践専門課程

（専門学校・修業年限2年以上）  
専門学校のうち、企業等と密接に連携して、最新の実務の知識・技術・技能を身につけられる実践的な職業教育に取り組む学科を文部科学大臣が「職業実践専門課程」として認定。2014年4月から開始。

#### ③ キャリア形成促進プログラム

（専門学校・修業年限2年未満）  
専門学校における社会人の職業に必要な能力の向上によるキャリア形成を図る機会の拡大に資するプログラムを文部科学大臣が「キャリア形成促進プログラム」として認定。2019年4月から開始。

### 認定プログラム講座の受講

（1）情報源くポータルサイト「マナパス」  
前述の認定プログラム講座は、ポータルサイト「マナパス」(<https://manapass.jp/>)で全て閲覧することができます。

「マナパス」は文部科学省から委託を受けた会社が開設・運営している社会人の学びを応援するためのポータルサイトです。「分野」「資格」「給付金や奨学金等の支援」「土日・夜間開講」「受講料」「地域」「通学」

通信」など自分の希望に沿った条件で講座内容が検索できるようになっています。

さらに講座情報だけではなく自分の学びのロールモデルを探せる「在校生・修了生インタビュー」や社会動向に関連した講座が検索できる「特集ページ」を掲載しています。「在校生・修了生インタビュー」では通信制大学「社会人大学・大学院」「大学公開講座」「専門学校」別に掲載されています。例えば、「通信制大学」では医療機器メーカーのシステムエンジニアから小学校の先生になった事例が掲載されています。特集ページでは現在、「Society5.0に必要な学び直し」「女性のための学び直し」「大学等におけるオンライン教育について」が掲げられ、それぞれのテーマに関連した情報や具体的な講座内容が検索できるようになっています。このうち「大学等におけるオンライン教育について」では無料で学べる日本最大のオンライン大学講座「JMOC」<sup>ジエムオーック</sup>の全講座が閲覧できるようになっています。

## (2) 認定プログラム講座の選択方法

「マナパス」を基礎情報源にして認定講座を幅広く情報収集することが必要です。具体的には「マナパス」の情報を手掛かりにして、別の情報にあたってみたり、直接、学校から情報を収集したりします。

ある程度、情報を収集したら、次に情報を整理し、絞り込んでいきます。その際に必要なのは情報を整理する基準項目を決め、その基準に従って評価することです。

【表】情報を整理するための評価表の例

5:かなりよい 4:よい 3:普通 2:よくない 1:かなりよくない

基準項目	学校・講座		
	A	B	C
1.学習内容 目的に合っているか、講師の質はどうか	4	4	3
2.学習環境 学びやすい環境か、支援体制はどうか	3	5	2
3.就職支援（重要項目） 支援はどの程度か、就職率はどうか	5	3	4
総合点	12	12	9

AとBは総合点が12点で同じだが、重要項目の「3.就職支援」の点数が高いことから「A」を選択

例えば、右の【表】のようなものを作成し、評価は5段階評価（5：かなりよい、4：よい、3：普通、2：よくない、1：かなりよくない）で評価していきます。総合点と同じになったら、重要な基準項目の点数によって決定していきます。基準項目は皆さん独自の基準項目（受講料、学校評価等）を作成するようにしてください。

## 公的な支援制度

働く人の主体的な能力開発に対する取り組みや、中長期的なキャリア形成を支援す

る国の制度として「教育訓練給付制度」「求職者支援制度」、経済的支援として「奨学金制度」があります。リカレント教育の認定プログラム講座の中にも給付の対象になっているものがあります。これもポータルサイト「マナパス」で検索することができます。

支援制度の概要は次のとおりです。

### (1) 教育訓練給付制度（厚生労働省）

#### △ 給付対象 △

・雇用保険に加入している在職者や、加入していた離職者。

#### △ 概要 △

・教育訓練の受講に支払った費用（入学金、受講費、授業料等）の一部を助成する制度。  
・教育訓練講座によって「一般教育訓練給付金」「特定一般教育訓練給付金」「専門実践教育訓練給付金」の3種類があり、それぞれの給付金には「給付資格」「給付対象となる教育訓練講座」「給付額」等の決まりがある。例えば「専門実践教育訓練給付金」の場合は、訓練期間4年間で最大224万円（2020年10月現在）を支給。

・詳細は、厚生労働省のホームページを参照。  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou\\_roudou/jinzaikehatsu/kyouiku.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/jinzaikehatsu/kyouiku.html)

### (2) 求職者支援制度（厚生労働省）

#### △ 支援対象 △

・雇用保険を受給できない求職者。  
(例)雇用保険の適用がなかった、加入

## >>> マルチステージ時代のキャリアデザイン

期間が足りず雇用保険の給付を受けられなかった、雇用保険の受給が終了した、学卒未就職者や自営廃業者)

### △概要▽

・ハローワークが中心となつてきめ細かな就職支援を実施することにより、安定した「就職」を実現するための制度。  
左記の2つの支援を実施。

#### ① 無料の職業訓練の実施

② 本人収入、世帯収入及び資産要件等、一定の支給要件を満たす場合は、職業訓練の受講を容易にするための給付金（職業訓練受講給付金）を支給

・詳細は、厚生労働省のホームページを参照。  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou\\_koudou/koyou/kyushokusha\\_shien/index.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_koudou/koyou/kyushokusha_shien/index.html)

#### (3) 奨学金制度（日本学生支援機構）

##### △支援対象▽

・経済的理由により修学が困難で、かつ優秀な学生であると認められるなどの一定の要件を満たす学生本人。

##### △概要▽

・奨学金は経済的理由により就学に困難がある優れた学生等に対し、教育の機会均等及び人材育成の観点から経済的支援を実施。

・国内の大学・短期大学・高等専門学校・専修学校（専門課程）及び大学院で学ぶ人を対象とした奨学金には、利子の付かない第一種奨学金、利子の付く第二種奨

学金、入学時の一時金として貸与する入学期特別増額貸与奨学金(利子付)がある。  
・詳細は日本学生支援機構のホームページを参照。

<https://www.jasso.go.jp/shogakukin/seido/index.html>

### 継続的に学ぶために必要な 行動・考え方

最後に継続的に学ぶために必要な行動・考え方について解説します。

まず、学びの前提として、「何歳になっても学び直しができ、成長・発達する」「学び直したことは自分の資産になる」という考え方を持つということです。その上で、次の3つの項目を意識して、行動することが大切になります。

① 無理のない計画を立て、学ぶことを習慣化する

学習計画を立てるためには、まずは何のために学ぶのかの「目的」を明確にします。目的は最終的な到達目標と考えてください。

次に、その最終的な到達目標を達成するための「中間目標」を段階的に設定します。その上で、中間目標について、何を、どのように行動していくのか、「行動計画」を立てていきます。行動計画を言い換えると、1日の中で、「学習時間」をいつ、どの程度確保するかということです。

学習時間の確保は、柔軟に考えるとよいでしょう。例えば、1日単位で30分間ずつ、

あるいは1週間単位で3時間など、無理のない時間設定をします。毎日継続することも大切ですが、1週間単位で継続するということも視野に入れてください。

さらに、これまでの学習プロセスを振り返って状況に応じて計画を改善するようにします。「一度決めた計画は守らねばならない」という考え方を捨てるのが継続学習のポイントになります。

② 学習方法を工夫し、楽しみながら学ぶ

学習方法を大きく2つに分けると「インプット学習」と「アウトプット学習」があります。「インプット学習」とは外部の情報

を自分の内部に取り込んでいく学習です。例えば、「見たり、聴いたり、読んだりすることです。「アウトプット学習」とは自分の内部に取り込んだ情報を外に出していく学習です。例えば、「伝えたり、書いたり、やってみたりすることです。

学習方法を工夫するとは、この「インプット学習」と「アウトプット学習」をセットで組み合わせるということです。学んだことを自分の中に定着させるためには、セットで組み合わせることは不可欠になります。組み合わせは次の通りです。

・見たことを伝える、見たことを書く、見たことをやってみる。  
・聴いたことを伝える、聴いたことを書く、聴いたことをやってみる。  
・読んだことを伝える、読んだことを書く、読んだことをやってみる。

「伝える」という行為では、相手がいないければ「声に出す」だけでも効果があります。「伝える」を「教える」にすると、さらに学習効果が高まります。

このアウトプットの「伝える」「書く」「やってみる」の行為について、「何を」「誰に」「いつ」「どこで」「どのように」を具体的に考えれば、自分だけのオリジナルの学習方法を考えることができます。

例えば筆者が普段、よくやっているのは、「本を読んだら、周囲の人に感想を話す・読書ノートに感想を書く・必ず講義でネタとして使う」といったことです。「講義でネタとして使う」については、本の内容にかかわらず初めからネタとして使うことを前提としています。予め「アウトプット」を想定して「インプット」するということです。

「やってみる」という行為は自分の経験として取り込むということになります。インプットの内容によっては経験に落とし込まないものも



あります。また、インプットしたものの自分の経験と関連づけながら、学習することによって、より自分の中に

定着させていくこととなります。これまで自分の学習方法を考えたことがなかった方は、ぜひ、試してみてください。「学習する楽しさ」を実感することができるでしょう。

### ③ 周囲からサポートを得ながら学ぶ

周囲とは身近なところでは、家族、友人、知人、学校のクラスメート、会社では上司や先輩、同僚、後輩などです。カウンセラーやキャリアコンサルタント等の専門家も含まれます。これら周囲からの支援が得られるようにするためのポイントは次の3つです。

#### △グループ学習の実施▽

「グループ学習」とは同じ目標を持った人々がグループになって助け合い、励まし合いながら学習する学習方法です。ソーシャル・メディアを上手に活用して、オフ会と組み合わせながら進めていきます。まずは気の合う仲間を見つけ、最初は2人からスタートしてもよいでしょう。

#### △周囲から支援を得る▽

普段から周囲とコミュニケーションをとり、自分が学んでいる内容だけではなく、どんな目的や思いで学んでいるのか、内面的なことについても、状況に応じて周囲に自己開示することが必要です。

また、支援を受ける前にまず自分から周囲に対して支援することも必要になります。

#### △キャリアコンサルタントに相談する▽

「キャリアコンサルタント」は、キャリア形成支援の専門家であり、名称独占(資格

を持つていないとその名称が名乗れない)の国家資格として職業能力開発促進法に規定されています。

前述した公的支援の「専門実践教育訓練給付金」及び「特定一般教育訓練給付金」の支給申請においては、プログラムの受講前にキャリアコンサルタントから「キャリアコンサルティング(カウンセリング)」を受けることになっています。

キャリアコンサルタントのカウンセリングを受けたい場合は「キャリアコンサーチ(キャリアアコンサルタント検索システム)で探すことができます。

#### ・キャリアコンサーチ

<https://careerconsultant.mhlw.go.jp/search/Matching/CareerSearchPage>

キャリアコンサルタントの情報公開者数：全国3710名(2020年9月末現在)

以上、人生100年時代における「学び」について、国のリカレント教育の展開事例を交えて解説しました。

ポータルサイトの開設を始め、学びの環境整備は着々と進んでいます。これからのキャリアデザインでは「継続的な学び」が不可欠です。これらの「学びの環境」を存分に活用し、学ぶことの意味・目的を自ら創造し、納得のいく自分らしいキャリアをぜひ、歩んでいただきたいと願っています。これまでの連載が、皆さまのキャリアデザインの一助になれば幸いです。